

うきしま

第48号

平成23年12月21日
PTA広報部

□ P T A 活動の「報告」

会長 村田 真一

○東日本大震災への救援金として京都新聞社社会福祉事業団とおして3万円の支援をさせていただきますました。

○八月二十七日(土)午後二時から約二時間にわたり、学校美化活動としてグラウンドの草引き及び体育館横道路沿いのゴミ拾いを行いました。



○十一月十一日(金)文化祭の模擬店でぜんざい、うどんを販売しました。大好評で用意していた八十食をほぼ完売しました。



○十一月十七日(木)京都府立高等学校校定時制郡部育友会連合会平成二十三年度役員会及び第二回研修会が、美山町「かやぶきの里」で開催され、副校長先生と共に参加しました。「そば打ち」を体験したあと、各校PTAの実践報告及び課題について交流をしました。



□ 学校の様子

★ 両丹高校校定通制総体

九月十七日(土)東舞鶴高校において両丹高等学校校定時制通信制総合体育大会が開催され、本校からはバドミントン部が出場しました。主将の三年・前田雅也君が選手宣誓を行い、男子の部で四年・川端貴之君、三年・朝倉滝大君ペアが見事優勝しました。



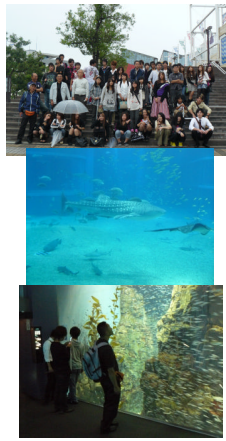
★ 生活体験発表会

九月二十二日(木)に京都市上京区のホテルで平成二十三年度第七回京都市府立高等学校校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催され、府内十一校から十二名の生徒が参加しました。本校からは昨年度に引き続き、四年市川華乃子さんが代表で出場し、「私の宿題」というテーマで堂々と発表し、見事優秀賞を受賞しました。



★ バス遠足

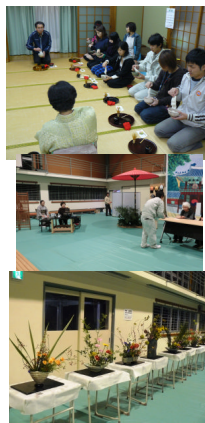
九月三十日(金)にバス遠足で海遊館・天保山ハーバービレッジに行きました。



★ 伝統文化体験授業

今年度新たな取組として府教育委員会の支援を受け、四年生八名が、本校華道クラブを指導いただいた藤岡孝甫先生の指導を受け、伝統文化授業を体験しました。一学期の華道に引き続き、二学期は茶道を体験しました。日本の伝統文化の素晴らしさや奥深さ、歴史を感じる

ことができ、自分を見つめる貴重な機会にもなりました。十一月十一日(金)に開催された文化祭では、学んだことを生かし、今年度初めて設置したお茶席で、先生の助手として活動しました。また、展示コーナーには生徒の華道作品も展示しました。



★ エイズ学習

十一月四日(金)にエイズ学習として岐阜大学教授近藤真庸先生から「愛すること・生きること」エイズの時代をともしに生きる」というテーマで御講演をいただきました。



★ 文化祭

十一月十一日(金)に文化祭を開催しました。作品コーナーには生け花、木工パズル、書、刺子布巾などを展示しました。舞台では一・二年生が紙芝居、三年生が「ガンバレ日本」をテーマに「旅立ちの日」等の合唱、四年生がグラスミュージックを発表しました。

また、昨年度に引き続き、在日
本大韓国民団サムルノリサー
クルの皆さんから韓国楽器を使
ったサムルノリの演奏をしてい
ただきました。副校長先生から
は日本剣道形の演武の披露があ
りました。お
茶席コーナー
やPTA、生
徒有志による
模擬店もあ
り、楽しいひ
と時を過ごし
ました。



★防災学習・防災訓練

八月三十一日(水)始業式終
了後、東日本大震災への京都府
教育活動支援チームの一員とし
て、七月に福島県において教育
活動支援に参加した浪江先生か
ら現地での体験について話を聞
きました。また、十一月十五日
(火)に防災学習
として自然災害に
関するDVDを視
聴しました。十一
月十六(水)には
舞鶴市消防署の協
力をいただき、防



災訓練を実施しました。避難訓
練のあと消防署の職員の方から
防災についての講演、AEDの
実演をしていただきました。

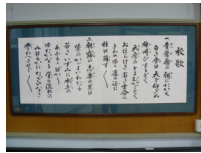
★生徒会選挙

十一月二十五日
(金)に生徒会選挙
を行い、新役員が決
定しました。



★校歌額の寄贈

この度、社団法人「働く少年
をたたえる会」より法人創立五
十周年を記念して、
校歌額を寄贈いた
だきました。書道
担当講師の谷口光
昭先生に揮毫して
いただきました。



□各学年より

一年担任 余田 翔太

今回、一年生にとって初めての
の文化祭(紙芝居)を通して、
生徒一人ひとりの性格と向き合
うことができました。絵を描く
ことは苦手でも、最後まで丁寧
にやり遂げたり、下絵は上手く
できていたのに、色塗りが面倒
臭くなり適当になったり、自分
の分担当が早く終わったので、二
枚目、三枚目と積極的に取り組
んだり。個性豊かな生徒がいて、
この学年を形成していると改め

て感じました。一学期の「浮島」
の終わりに、「学校行事に一人
ひとりが役割と責任を持ち、積
極的に参加してほしい」と綴り
ましたが、多くの生徒が文化祭
を通して成長したのではないの
でしょうか。

一年生は、まだ沢山の課題を
抱えています。授業中に関係の
ない話で盛り上がり、切り替え
ができず必要以上の大声で話し
たり、自分の欠課時数を把握し
ていないのにも関わらず「大丈
夫」と根拠のない余裕を持ち、
結局はどうしようもない状況に
陥ったりと。こういった課題を
解消するには、教員が注意する
前に、生徒同士で注意できる環
境を作ることが必要です。そう
すれば、クラスの雰囲気も益々
良くなり、お互いに成長しなが
ら学校生活を送ることができ
るのではないのでしょうか。三学
期はこの点に期待しています。

二年担任 児玉 祐輝

二学期は大きな学校行事、文
化祭がありました。浮島分校で
の文化祭は二回目、模擬店の
カレー等を楽しみにする生徒、
ステージ発表に対して抵抗を感
じている生徒がいるなど、文化
祭に対する思いは様々でした。
ステージ発表は昨年と同様、紙
芝居でした。内容は「アンパン
マン」。昨年の紙芝居「ピノキ

オー」と比べて、よくできた
はなかなか言えませんが、よ
り良い作品を作ろうと励んで
いた生徒、自分の役割をしつ
かりと果たそうとする生徒が
おり、よかったです感じています。
一つの集団として、団結、協
力し、行動することはまだま
だできていない状態です。今
後授業や行事を通して、でき
るようになっていってほしい
と感じています。

授業では、落ち着きがない
状態がしばしば見られました。
落ち着いて話を聞き、積極的
に取り組む生徒がいる一方で、
私語や携帯に気をとられ、授
業に参加しない生徒がいるな
ど、二極化している状態です。
まず、学習したいと考えてい
る生徒、落ち着いて話を聞き
たいと考えている生徒がいる
ことを認識し、周りに迷惑を
かけない行動を取るよう指導
しています。やる気があれば、
全員積極的に取り組む生徒だ
と感じています。今年度もあ
と残りわずかですが、意欲的
自主的に励んでくれることを
期待しています。

三年担任 山本 彰治

いよいよ師走に入り今年も
あと少しとなりました。今年
は三月十一日に起こった東北
大震災や、それに係わる原発

からの放射能汚染と非常に悲しい出来事が印象に残っています。今も放射能汚染のことがテレビなどのニュースで連日のように伝えられています。二学期に浮島分校でも防災学習および防災訓練を行い、万が一に備えての心構えについて生徒たちも強く意識したと思います。さて、長かった二学期もいよいよ終わりに近づいてきました。二学期の大きな行事として十一月十一日に文化祭が行われました。三年生は今年も歌がよいということに決まり、頑張つて練習をしました。今年も、リーダーとなる存在がいなく担任主導での練習になってしまったのは残念なことです。「ガンバレ日本！」というテーマで取り組み、本番前にAKB48の「ヘビーローテーション」を振り付けで踊ろうということが男子の間で決まり、猛特訓をして担任をはじめ数人の男子で踊り、会場内はけっこう盛り上がったのではないかと思います。来年は生徒達にとって最後の文化祭になるので、思い出す深い出し物が出ればよいのです。いつも保護者の皆さまには同じお願いですが、各家庭におかれましては、学校への出席を第一で生活をするようにご指導をお願い致します。

来年度の始業式は一月十日の火曜日です。全員が元気な姿で登校してくれることを楽しみにしています。特に正月などはだらだらとした生活を送りがちですが、生活のリズムをつけ節度ある日々を過ごしてほしいと思います。では来年はよい年になることを願つて終わりにしたいと思ひます。

四年担任 森脇 尚志

四年生の諸君と学校生活を送るのは、もう後ほんの少しです。みんなは今、何を考えているのかなあ、と思います。浮島分校での生活が多かれ少なかれ、百%諸君の人生に影響を与えたことは間違いないことなのです。仮にA君に、「振り返つてみて、学校生活どうやった」つて尋ねたら、どの様な答が返ってくるでしょうか。「別に、ナントモ思つてへんわ」という答が返ってきたら、担任としては少し寂しい気がしません。

では今度は、ご両親を初め保護者の方々に同じような質問をしたならば、どうでしょうか。A君と同じような答は絶対に返つてはこないでしょう。保護者の方々は皆、この浮島での四年間（あるいはそれ以上）にわたる生徒諸君の学校生活に対して、気を張り頑張り気を遣い、来春には巣立ちゆく諸君を一杯の思い

で応援されてきたのです。君たちと同様、保護者の人生にもこの浮島分校は影響を与えたのです。「別に、・・・」なんていう答は出てきようがないのです。一言や二言ではとても言い表せない答えなのです。

今こそ、大人に成るべく節目を間近に迎えている今こそ、保護者の気持ちを感じ、自らのこの数年を振り返ることが大事なのではないか、と思います。そして、過去の自分に対するアドバイスをしつかりすることが大事です。それが卒業につながっていくのです。

保護者の皆様におかれましては、「やつと」という思いの中に、「よくやった」という、ご自分に対する思いもありません。ではと、お察しします。残り少なくなりました学校生活を、意義あるものとして送ることができましように、最後のご指導をよろしくお願いいたします。

□ 教務部長 高橋 光重

長かった2学期も終わり、よいよ冬休みが始まります。今年は大暴雪が出た関係で終業式が一日遅れてしまいました。冬休みが短くなつてしまいました。さて、二学期の通知票を見ていただきまして成績が思わしくない科目につきましては、学校でも担任を通じて指導しますが、ご

家庭におかれましては日々の学習を頑張るようにご指導と励ましをよろしくお願いいたします。また、欠課が多い科目がございましたら、必ず出席するようご指導下さい。2学期の成績による補充補習や特別活動の補習の連絡を受けた場合には必ず受けるようご指導下さい。

四年生は、あとわずかで卒業です。これまで頑張つてきたのですからちゃんと卒業できようようにしてほしいと思います。一年生から三年生までの人は、昼間働いて夜学習するのは大変ですが、授業にはしっかりと出席しはじめに取り組んでほしいと思います。

さて、生徒諸君は何といつても若いのですから、大きな夢と目標を持ってその実現に向かつて力強く努力を重ねて生きていってほしいと思ひます。京都セラミックの創始者の稲盛和夫氏も、著書「生き方」の中で、「自分の人生を自分の力でしっかりと創造していきける人というのは、必ずその基盤として、大きすぎるぐらいの夢、身の丈を超えるような願望を抱いているものです。私にしても、自分をここまで引っ張つてきてくれた原動力は、若いときに抱いた夢の大きさ、目標の高さだったといつてもいいでしょう」と述べ、

大きな夢や目標を持つことの大切さを述べています。がんばってほしいと思います。

□ 生徒指導部長 浪江 大輔

暖かくなったり寒くなったりの繰り返しはなにか、長かった二学期も終りを迎えます。行事としては九月には東舞鶴高校会場で、総体と大阪へのバス遠足が、十一月には文化祭がありました。

総体に関しては、本校では部活動加入率が低く学校行事にはなっていないませんが、三年生を中心としたバドミントン部の選手たちが優勝を目指し一生懸命プレーしました。

バス遠足では海遊館を中心に買い物や街の散策、水族館見学等それぞれの目的にあわせて楽しむことができました。

文化祭では各学年ともステージ発表に工夫を凝らし、発表をするのができました。在日韓国民団舞鶴支部のサムルノリサークルの特別出演の演奏も素晴らしいものでした。バザーではPTAの「きつねうどん」と「ぜんざい」、四年生有志の「カレーライス」が振る舞われ、こちらも大盛況でした。

様々な行事を通して生徒たちは確実に成長していきませんが、ここで気になっていることがありません。それは行事のみならず

日常の授業でもそうなのですが「自分たちで工夫して何かをやりたい」という姿勢が著しく低いことです。何もかも任せ、先生任せで自分はお客さんのようになってしまうている生徒が大部分です。これでは誰のためにおこなっている学校行事かわかりません。今月、三年生のメンバーで生徒会新役員も決定しましたが、来年の彼らの活躍を期待しています。

□ 進路指導部長 榎本 修作

四年生の進路決定状況をお知らせします。

卒業予定者八名中、学校紹介就職内定者三名(来年四月一日より正社員として勤めます。就業予定場所は舞鶴市と京都市です)、継続就職三名、進学予定一名、その他一名です。昨年以上に厳しい求人状況が続く中、学校紹介就職がさらに難化したように思われます。その中で、浮島分校の生徒諸君は非常に健闘してくれました。今年の就職戦線を振り返って感じたことですが、困難な時にこそ、基本が大事だと感じました。就職ガイダンス、模擬面接、会社見学、就職問題演習等に四年生がきちんち取り組めたことが一定の成果の要因だと思います。

また、本年度も就職支援センターの

活動や早期からの地元ハローワークの支援がありました。特に在学中や既卒者の就業支援でいいねいなサポートを受けました。連携の重要性を痛感しています。やるべきことをやれば目標は達成できます。逆に油断をしてやるべきことをやらないと、きつちり厳しい結果が出ます。自分の人生を自分の力で切り開いてください。一緒にがんばりましょう。

□ 保健部長 森脇 尚志

ここ数年、地球規模での異常現象が頻発しています。この丸い地球上に生存している我々人間にも、その影響が出てきているような気がします。生息地盤が異常を来せば乗っかっている生き物は当然のことながら、無関係ではいられないでしょう。肉体面への影響は固より、精神の部分にまでその陰はかかってきているように思います。

これまで全く見られなかった新種のウイルスが発見されたり、原因不明の疾病に罹ったり、はたまた理解不能な行動に突然走ったりという、ある種のおののきさえ覚えるような現象が起こっているではありませんか。もはや「保健」を実践するのは不可能なことではないでしょうか。

「保健」とは、「健康を保つこと」なのですが、この健康には

心も精神も入ります。

さて、今学期に実施した「食生活アンケート」で気になる結果が出ていますので、お知らせします。詳しくは「ほけんだより」で配布しますが、何と四十%の生徒が朝ご飯を食べていません。そしてジュース類(コーヒー・炭酸など)を毎日飲む・時々飲むという生徒が、九十四%という結果が出ています。糖分の摂り過ぎになることは言うまでもないでしょう。これら飲料に加えてカップ麺・スナック菓子もかなり多く取り込んでいる現状があります。

今こそ、体内美化を目指し、自分自身への「保健」を真剣に考えるべきだと思います。生息地盤が異常を来している今こそ積極的に自らを啓蒙し、健康的な心身をつくるうではありませんか。この冬、一緒に考えてみましょう。

◆◆ 編集後記 ◆◆

『お正月に向けて、新しい年の始まりです。心身ともにリフレッシュし、今一度自分の周りを振り返り、新年に向けて新しい目標を見つけてください。ご家庭におかれましては健康に留意ください。』

村田 真一



